SUBARU

CORPORATE PROFILE

会社案内

INTRODUCTION

「笑顔をつくる会社」を目指して

自動車メーカーとしては決して規模の大きくないSUBARUグループは、限られた経営資源の選択と集中を行い、付加価値をつけ、徹底した差別化を図るビジネスモデルを展開しています。そのようななかで、お客様や販売店から「SUBARUはDifferentなブランドだ」とおっしゃっていただけるようになりました。SUBARUを他社とは違うブランドに育ててくださったお客様を第一として、時代や外部環境の変化に左右されないSUBARUらしさを進化させること。そして、「安心と愉しさ」という価値をお届けし、お客様の笑顔をつくること。私たちが目指している「笑顔をつくる会社」は、お客様の振る舞いから教えられたことでもあります。人、社会、地球までをも笑顔にしたい、そんなSUBARUでありたいと考えています。

SUBARUの創造の歴史

時代背景に基づくお客様ニーズに対し、常に先んじてSUBARUらしい商品でお応えしてきたことがお客様との絆を強固なものとしてきました。特に、クルマに乗るすべての人々にとって普遍的な価値である「安全」は、あらゆる技術を磨き続けてきたことにより、お客様に実感いただける揺るぎない私たちの強みであると考えています。

時代背景	～1950年	1950年代	1960～70年代	1980～ 1990年代		2000年以降
		• 戦後復興 • 国民車構想	• 高度経済成長 • モータリゼーション	• レジャー（スキー）ブーム	• モータースポーツブーム	• リーマンショック • 安全意識の高まり • 環境意識の高まり
時代背景に基づくお客様のニーズ		• 移動したい • 手の届く価格のクルマが欲しい	• 天候を気にせずにクルマに乗りたい • マイカーを家族で楽しみたい	• レジャーを仲間と楽しみたい	• クルマにこだわりたい • 自分らしさを実現したい	• クルマと関わるすべての時間を安全に過ごしたい • 社会や環境により良いことをしたい

SUBARUがクルマづくりを通して提供してきた価値

- 「移動できる」という価値
- 「安全性能」という価値
- 「誰もが家族と一緒に移動できる」という価値
- 「SUBARUコミュニティ」という価値
- 「飾らない自分らしいライフスタイル」という価値

安全思想を体現してきた技術

- 視界設計 0次安全
- 1965年 衝突試験開始 衝突安全
- 1966年 水平対向エンジン 走行安全
- 1972年 4WD／AWD 走行安全
- 1989年 ステレオカメラ開発開始 予防安全
- 1999年 ADA（アクティブ・ドライビング・アシスト）
- 2008年 アイサイト
- 2016年 スバルグローバルプラットフォーム 走行安全 衝突安全
- 2020年 SUBARU STARLINK つながる安全

商品など

創業前史 航空機

1958年 スバル360

1966年 スバル1000

1972年 レオーネ4WD エステートバン

1989年 レガシィ

1988年 スバルテクニカインターナショナル(株)設立

1992年 インプレッサ

1995年 グランドワゴン

1997年 フォレスター

1997年 WRC（世界ラリー選手権）3連覇

2012年 SUBARU XV

2012年 SUBARU BRZ

2014年 レヴォーグ

2008年～ ニュルブルクリンク24時間耐久レース出場

※主に日本市場について記載。

基本情報

創業
中島知久平が
飛行機研究所を創設
1917年

事業セグメント
2セグメント
（自動車・航空宇宙）

連結業績*1
年間販売台数
86万台

設立
富士重工業株式会社設立
1953年

生産拠点
自動車 2拠点
（群馬県（日本）・インディアナ州（米国））
航空宇宙 2拠点
（栃木県・愛知県（日本））

売上収益
2兆8,302億円

社名変更
株式会社SUBARU誕生
2017年

連結従業員数*1
36,070人

営業利益
1,025億円

資本金*1
1,538億円

関係会社数*1
95社

業界シェア数*3
自動車業界シェア
約1%

自動車販売網*2
国内442店舗
海外90か国・地域以上

*1 2021年3月期
*2 2021年4月1日現在
*3 2020年（暦年）
*4 2018～2020年（暦年）販売実績ベース。
他社からのOEM供給車を除く。

目指す方向性

盤石な財務基盤

自己資本比率*1
52.1%
発行体格付
A-
（格付投資情報センターR&I）
2020年10月8日現在

業界高位の収益率

連結営業利益率*1
3.6%

SUBARU グループのユニークなビジネスモデル

自動車セグメント

選択と集中

重点市場*3
米国マーケットシェア
4.2%

車種展開
10車種
（OEM供給車を除く）

自動車カテゴリー*3
SUV販売比率
約80%
（小売販売）

差別化

1つのプラットフォームから最大9車種を生み出す生産開発

AWD比率**98%*4**
累計生産台数
2,000万台

付加価値

総合安全思想
0次安全
走行安全
予防安全
衝突安全
つながる安全
※詳細はP12「SUBARUの総合安全」をご参照ください。

独自技術
スバルグローバルプラットフォーム
シンメトリカルAWD
水平対向エンジン
運転支援システム（アイサイト）
※詳細はP13「SUBARUの独自技術」をご参照ください。

マーケットからの評価

2020-2021 日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞
レヴォーグ

JNCAP 自動車安全性能2020 ファイブスター大賞受賞
レヴォーグ

持続可能な社会の実現に向けて

2030年に死亡交通事故ゼロ※1を目指す

2030年までに全世界販売台数の40%以上を電気自動車（EV）+ハイブリッド車（HV）に

2030年代前半には生産・販売するすべてのSUBARU車※2に電動技術を搭載

2050年にWell-to-Wheel※3で新車平均（走行時）のCO_2排出量を2010年比で90%以上削減※4

2030年度に工場・オフィスから直接排出するCO_2を2016年度比30%（総量ベース）の削減に取り組む

2050年度にカーボン・ニュートラルを目指す※5

※1 SUBARU乗車中の死亡事故およびSUBARUとの衝突による歩行者・自転車などの死亡事故をゼロに。
※2 他社からOEM供給を受ける車種を除く。
※3「油井から車輪」の意味。EVなどが使用する電力の発電エネルギー源まで遡って、CO_2排出量を算出する考え方を指す。
※4 2050年に世界で販売されるすべてのSUBARU車の燃費（届出値）から算出するCO_2排出量を同2010年比で90%以上削減（総量ベース）。
市場環境変化による販売台数の増減は加味するが、走行距離の多少は考慮しない。
※5 SUBARUグループの工場やオフィスなどから直接排出されるCO_2（スコープ1および2）。

SUBARUグループのCSR

私たちは、2018年に策定した中期経営ビジョン「STEP」にて、「笑顔をつくる会社」というありたい姿を描きました。その実現に向け、CSR重点6領域の考え方を取り入れ、SUBARUグローバルサステナビリティ方針に基づいた取り組みを行うことで、企業としての社会的責任を果たし、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様に「安心と愉しさ」を提供していきます。そして、SUBARUグループは真のグローバル企業として従業員一人ひとりが成長の原動力となり、持続的な成長を目指すとともに、愉しく持続可能な社会の実現に貢献していきます。

SUBARUグループのCSR重点6領域

CSR重点6領域特定プロセス

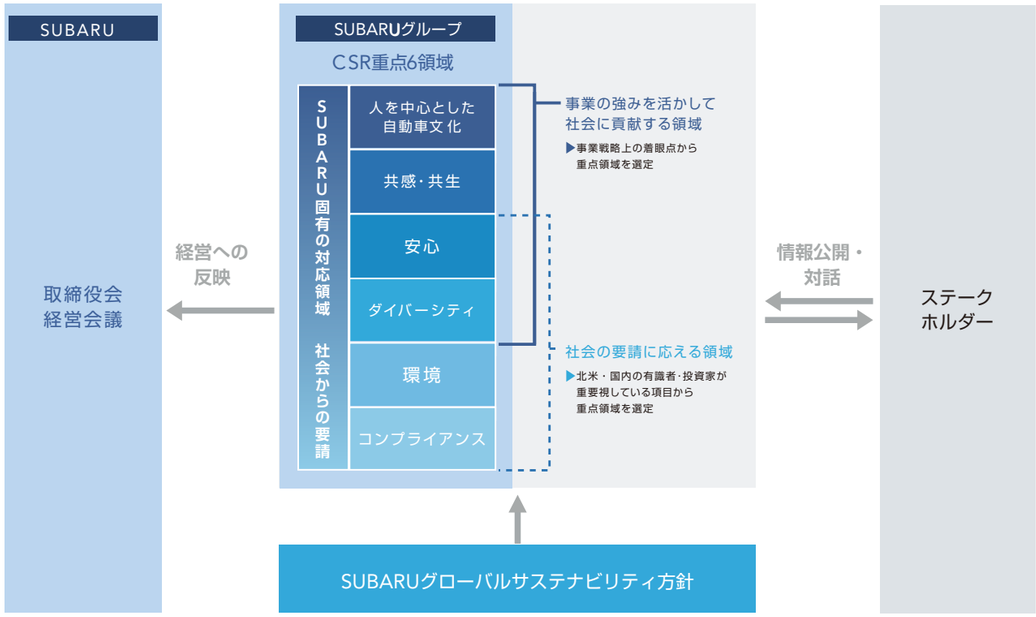
SUBARUグループは、中期経営ビジョン「STEP」に合わせ、CSRの取り組みについても「CSR重点6領域」――「人を中心とした自動車文化」「共感・共生」「安心」「ダイバーシティ」「環境」「コンプライアンス」――を定めました。

重点領域の選定にあたっては、まずCSR重点項目として社会的要請の高い41項目を抽出したうえで、北米や国内の有識者・投資家にアンケートを実施しました。それらの回答・意見を踏まえ、「事業の強みを活かして社会に貢献する領域」と「社会の要請に応える領域」の2つの視点から評価・検討しました。その結果、事業の強みを活かして社会に貢献する領域として、「人を中心とした自動車文化」「共感·共生」「安心」「ダイバーシティ」の4つを、社会の要請に応える領域として、「安心」「ダイバーシティ」「環境」「コンプライアンス」の4つを選定しました。

「安心」と「ダイバーシティ」が重複していますが、「安心」については、社会の要請とSUBARUグループの事業の強みが合致している領域であり、「ダイバーシティ」については、社会から求められるダイバーシティだけでなく、お客様に提供する商品のダイバーシティを含めた広義のものと捉えたためです。

2021年5月に中期経営ビジョン「STEP」の進捗報告を発表しましたが、重点領域に基本的な変更はありません。SUBARUグローバルサステナビリティ方針を軸にグループ・グローバルで意思を共有して、今後も「笑顔をつくる会社」を目指し、CSR重点6領域の取り組みを推進していきます。

CSR重点6領域の経営への反映



SUBARUグローバルサステナビリティ方針

SUBARUでは、これまで2009年6月に改定した「CSR方針」のもと、CSRの取り組みを推進してきましたが、社会環境やステークホルダーとの関わり方の変化を踏まえ、また、グループ·グローバルの従業員が意思を共有できるものとして、「SUBARUグローバルサステナビリティ方針」を2020年4月に制定しました。

本方針は、株式会社SUBARUおよびすべての子会社に適用されるものです。

SUBARUグローバルサステナビリティ方針

私たちSUBARUグループは、人・社会・環境の調和を目指し、

1. 事業を通じて、地球環境の保護を含む様々な社会課題の解決と、持続可能な社会の実現に貢献します。
2. 高品質と個性を大切にし、先進の技術で、SUBARUならではの価値を提供し続け、SUBARUグループに関わるすべての人々の人生を豊かにしていきます。
3. 国際社会における良き企業市民として、人権および多様な価値観・個性を尊重し、すべてのステークホルダーに誠実に向き合います。
4. 従業員一人ひとりが、安全に安心して働くことができ、かつ働きがいを感じられるよう職場環境を向上させます。
5. 国際ルールや各国・地域の法令を遵守するとともに、その文化・慣習等を尊重し、公正で透明な企業統治を行います。
6. ステークホルダーとの対話を経営に活かすとともに、適時かつ適切に企業情報を開示します。

CSR重点6領域の取り組みとSDGs

2030年に向けた持続可能な未来を実現するための開発目標SDGs（Sustainable Development Goals）への対応については、SUBARUグループとして重要性を認識しています。

CSR重点6領域について「2025年のありたい姿」を明確にすることで各領域の取り組みを一層強化し、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に積極的に貢献していきます。

具体的には、「2030年に死亡交通事故ゼロ※を目指す」という目標を掲げているSUBARUグループの取り組みは、SDGsのターゲット3.6「2020年までに、世界の道路交通事故による死傷者を半減させる」の達成に寄与すると考えています。

※ SUBARU乗車中の死亡事故およびSUBARUとの衝突による歩行者・自転車などの死亡事故をゼロに。

CSR重点6領域「基本的な考え方」と「2025年のありたい姿」

CSR重点6領域	基本的な考え方	2025年のありたい姿	貢献するSDGs
人を中心とした自動車文化	「クルマは単なる移動手段ではない。」と考えます。SUBARUは、「安心と愉しさ」といった人の「感性」を大切にし、人の心や人生を豊かにするパートナーとなる商品·サービスを付加価値としてお客様に届け、持続可能なモビリティ文化を醸成します。	人の心や人生を豊かにするパートナーとなる企業になる。	9.1 11.2
共感·共生	人と人とのコミュニケーションの輪を広げ、一人ひとりのお客様および社会の声に真摯に向き合うことで、信頼·共感され、共生できる企業になります。	広く社会から信頼·共感され、共生できる企業になる。	11.2 17.16
安心	すべてのステークホルダーに「最高の安心」を感じていただける存在となります。	すべてのステークホルダーに「最高の安心」を感じていただける企業になる。	3.6
ダイバーシティ	多様な市場価値を尊重した商品の提供と、SUBARUグループで働くすべての人々の多様な価値観の尊重と反映がSUBARUグループのダイバーシティと考え、推進します。	すべての人々の多様な価値観を尊重しつつ、多様な市場価値を創出する事業を推進する。	5.5 5.5.2 8.5
環境	SUBARUのフィールドである「大地と空と自然」を将来世代へ伝承するため、企業活動全体で環境に配慮していきます。	企業活動を通じて「大地と空と自然」が広がる地球環境を大切に守っていく。	12.2 12.5 13.1 13.2
コンプライアンス	法令や社会規範を守って業務が遂行できている、そしてコンプライアンス重視·優先の考え方がSUBARUグループで働くすべての人々に浸透し、実行されている企業になります。	誠実に行動し、社会から信頼され、共感される企業になる。	8.7 8.8 16.5 16.5.2

SUBARU の目指す方向性

2030年に 死亡交通事故ゼロ を目指す

個性と技術革新で 脱炭素社会へ貢献 していく

「安心と愉しさ」を支える技術をさらに進化
電動化の時代でも「SUBARUらしさ」は失われない

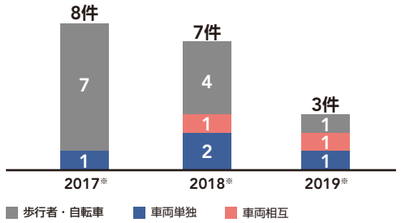
あらゆる場面での安全性を高め、死亡交通事故ゼロを目指します。

2018年に公表した中期経営ビジョン「STEP」において、「人の命を守る」ことにこだわり、2030年に死亡交通事故ゼロ※の実現に向けて取り組んでいくことを発信しました。これまでSUBARUは強みである運転支援システム「アイサイト」による予防安全性能と「スバル グローバル プラットフォーム」の採用によって衝突安全性能を進化させてきましたが、さらに知能化技術を融合して「安心と愉しさ」をより追求していきます。

新世代の「アイサイトX」は、高速道路での高度運転支援システムを搭載しました。また、「SUBARU STARLINK」によるコネクティッドサービスとの連携により、万一の事故の際にも事故状況に応じて救命対応を可能にする「つながる安全」の強化も推進しています。SUBARUは、高度なセンシング技術とAIの判断能力の融合を推し進め、あらゆる場面での安全性を高めることで死亡交通事故ゼロを目指します。

※死亡交通事故ゼロ：SUBARU乗車中の死亡事故およびSUBARUの衝突による歩行者・自動車などの死亡事故をゼロに。

日本国内で過去5年に初度登録されたSUBARU登録車が関連する死亡交通事故件数



公益財団法人交通事故総合分析センターのデータをもとにSUBARUが独自に算出
SUBARU車内乗員またはSUBARU車と歩行者・自転車の死亡交通事故件数

※2017年：2013年～2017年に初度登録されたSUBARU車
2018年：2014年～2018年に初度登録されたSUBARU車
2019年：2015年～2019年に初度登録されたSUBARU車

SUBARUらしさを進化させ、脱炭素社会の実現に貢献していきます。

自動車の電動化が進むなか、SUBARUは個性と技術革新によって「SUBARUらしさ」を発揮し、脱炭素社会の実現に貢献していきます。具体的には、2030年までに全世界での販売台数の40%以上をBEV（電気自動車）とハイブリッド車に転換していく計画です。さらに、2030年代前半までには、全世界で販売するSUBARU車のすべてに電動技術を適用するとともに、2050年にはWell-to-Wheel※1でCO_2排出量を2010年比で90%以上削減※2することを目指しています。

将来的には自動車はモーター駆動に置き換わっていくことが予想されますが、電動化が進展してもクルマに求められる安全性能の重要性は変わりません。また、加速性能はもとより、SUBARUの持つAWDの制御知見を緻密で応答性の高いモーターでより活かせると考えており、走りの安定性、動的質感、操る愉しさといった「SUBARUらしさ」をより高めていきます。

SUBARUでは、環境の変化を踏まえ、今まで以上にこれらの取り組みを加速させていきます。

環境対応とSUBARUらしさの強化

CO_2削減に向けたロードマップ

- **2030年▶** 全世界販売台数の40%以上を電動車へ（BEV※＋ハイブリッド車）
- **2030年代前半までに▶** 世界中で販売されている全てのSUBARU車※3に電動技術※4を適用
- **2050年▶** Well-to-Wheel※1でCO_2 90%以上削減※2（2010年比）

→ カーボンニュートラル実現へ貢献

モーター駆動でAWD性能、動的質感がさらに進化

→ 電動化の時代においても「SUBARUらしさ」を強化し、2050年に向けたロードマップを加速させる

※バッテリー式電気自動車
※1「油井から車輪」の意味。EVなどが使用する電力の発電エネルギー源まで遡って、CO_2排出量を算出する考え方を指す。
※2 2050年に世界で販売されるすべてのSUBARU車の燃費（届出値）から算出するCO_2排出量を同2010年比で90%以上削減。総量ベース。市場環境変化による販売台数の増減は加味するが、走行距離の多少は考慮しない。
※3 他社からOEM供給を受ける車種を除く。
※4 EV・HVなど、電力利用を高める技術を指す。

AI開発拠点「SUBARU Lab（スバルラボ）」を開設

SUBARUは2030年に死亡交通事故ゼロを目指し、その実現に向けて運転支援システム「アイサイト」にAIの判断能力を融合させることで、安全性をさらに向上させる研究開発を行っています。

近年の再開発により、IT企業の集積地となった東京・渋谷に「SUBARU Lab」を開設し、AI開発に必要な人財のスムーズかつ的確な採用やIT関連企業との連携を行っていくことで、これまで以上にスピード感ある開発に取り組んでいきます。

2022年の年央までにEV「SOLTERRA」をグローバルで展開

SUBARUでは、当社初となるグローバル展開のEV「SOLTERRA（ソルテラ）」を2022年の年央までに日本をはじめ、米国、欧州、中国などで発売予定です。これはトヨタ自動車と共同開発するCセグメントのSUVモデルで、新たに共同開発したEV専用プラットフォーム「e-SUBARU GLOBAL PLATFORM」を採用しました。「もっといいクルマ」を目指し、両社のそれぞれの強みを活かした、EVならではの魅力を持ったSUVモデルです。

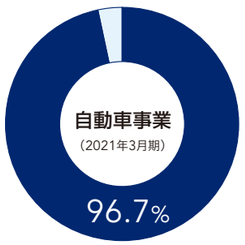
事業別概況

自動車事業

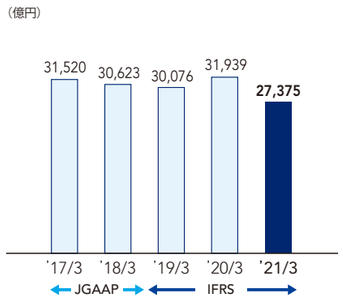
当社は1958年に「スバル360」を発売して自動車メーカーとしてのスタートを切って以降、水平対向エンジンやシンメトリカル、AWDなどのコア技術を起点に、新しいカテゴリーの開拓や、世界初※の運転支援システム「アイサイト」に代表される技術価値の創造を通して、常にクルマの新しい価値を提供し、お客様との絆を深めてきました。近年では、米国を重点市場と位置づけ、SUVとスポーツモデルを中心とした商品ラインアップとするなど、限られた資源を強みと特長を伸ばすべき分野に集中させる戦略をとり、付加価値の高い商品を通して「安心と愉しさ」を提供しています。また、トヨタ自動車とのアライアンスでは、互いの強みを持ち寄り、「もっといいクルマづくり」に取り組んでいます。

※ステレオカメラのみで各種機能を実現した運転支援システムとして（当社調べ）

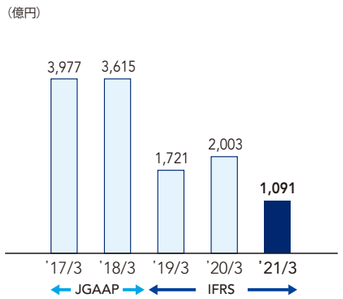
売上収益全体に占める割合



売上収益の推移



営業利益の推移

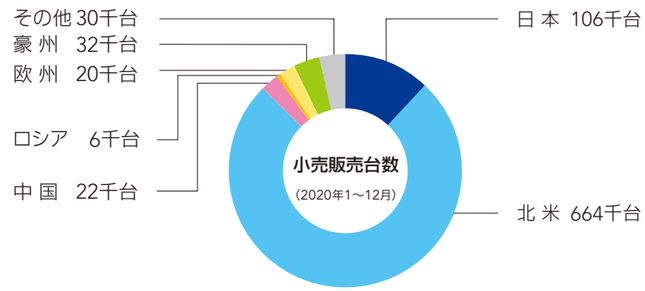


今後の目指す姿

SUBARUが目指す「2030年死亡交通事故ゼロ※」に向けて、予防安全、衝突安全をはじめとする安全性能をさらに進化させることに加えて、つながる安全を強化することで、あらゆる場面での安全性を高めていきます。
脱炭素社会実現への貢献においては、EVやハイブリッド車などの基幹技術開発をアライアンスも活用しながら推進し、2050年カーボンニュートラル実現に向けたロードマップを加速させます。
SUBARUは今後も、SUBARU独自の既存コア技術を進化させるとともに、時代の変化に応じた将来技術を養い、高めながら「SUBARUらしさ」を磨き続け、世界中のお客様に「安心と愉しさ」を提供していきます。

※SUBARU乗車中の死亡事故およびSUBARUとの衝突による歩行者・自転車などの死亡事故をゼロに。

地域別販売台数



商品ラインアップ

ASCENT
（北米専用）
SUV

販売台数：71千台
販売地域：北米

OUTBACK
SUV

写真は北米仕様

販売台数：180千台
販売地域：日本、北米、ロシア、欧州、豪州、中国、その他

FORESTER
SUV

販売台数：266千台
販売地域：日本、北米、ロシア、欧州、豪州、中国、その他

SUBARU XV
（北米名:CROSSTREK）
SUV

販売台数：186千台
販売地域：日本、北米、ロシア、欧州、豪州、中国、その他

LEGACY
セダン

写真は北米仕様

販売台数：32千台
販売地域：日本、北米、ロシア、欧州、豪州、中国、その他

LEVORG
スポーツ／ワゴン

販売台数：14千台
販売地域：日本、欧州、豪州、その他

WRX
スポーツ／セダン

販売台数：32千台
販売地域：日本、北米、ロシア、豪州、その他

SUBARU BRZ
スポーツ／クーペ

写真はプロトタイプ

販売台数：5千台
販売地域：日本、北米、欧州、豪州、中国、その他

IMPREZA
ワゴン･セダン

販売台数：71千台
販売地域：日本、北米、ロシア、欧州、豪州、その他

OEM

JUSTY

STELLA

SAMBAR VAN

CHIFFON

PLEO+ PLUS

SAMBAR TRUCK

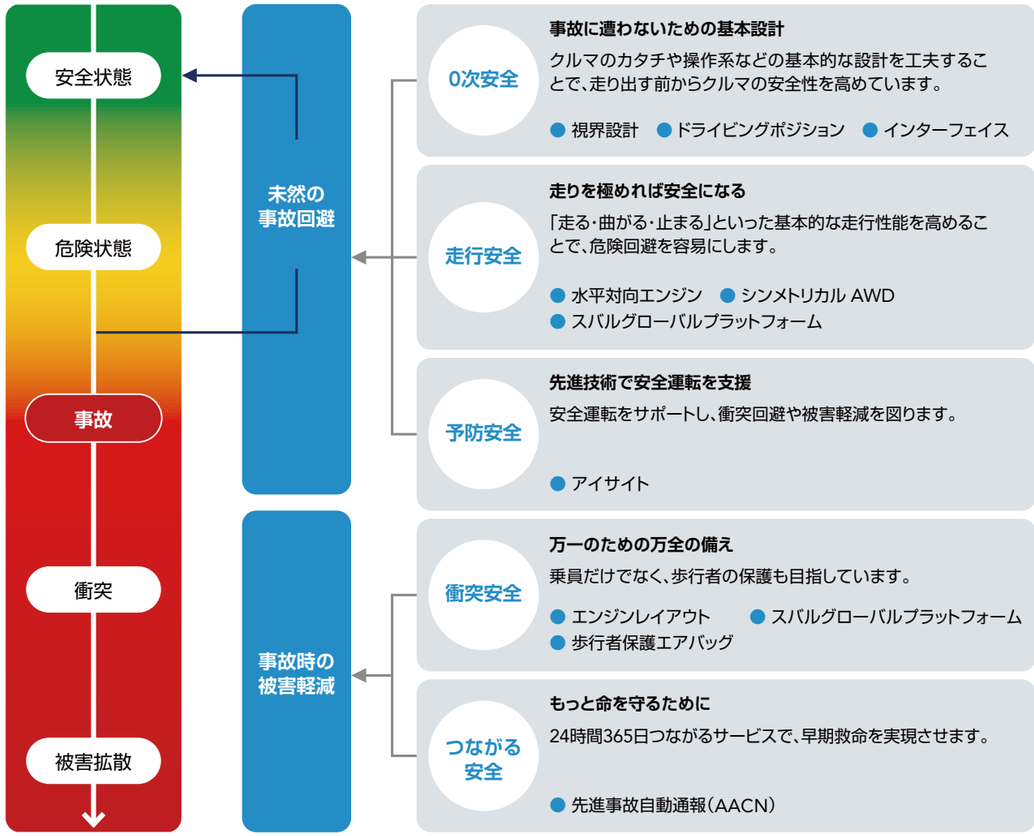
販売台数：23千台
販売地域：日本(ダイハツ工業株式会社からのOEM供給です)

＊販売台数は小売販売台数。
対象期間は2020年1月1日～12月31日。

SUBARUの総合安全　2030年に死亡交通事故ゼロ※を目指す

SUBARUは、あらゆる視点からクルマの安全性能を追求し、従来の「0次安全」「走行安全」「予防安全」「衝突安全」の4つの分野をさらに強化するとともに、「つながる安全」を加え、2030年に死亡交通事故ゼロを目指します。

※SUBARU乗車中の死亡事故およびSUBARUとの衝突による歩行者・自転車等の死亡事故をゼロに。



衝突安全　世界で評価される安全性能

SUBARUでは、「スバル360」を開発した約60年前から「クルマは人の命を乗せて走るもの、だから安全を最優先に考える」という思想が脈々と受け継がれています。まだ安全志向が世の中に浸透していない1960年代から独自の衝突安全試験を行い、現在では国内外の安全性評価において常にトップクラスの評価を受けています。

SUBARUの独自技術

スバルグローバルプラットフォーム

走りの質感や衝突安全性能を高い次元で両立

2016年10月にフルモデルチェンジをしたインプレッサから、順次導入している「スバルグローバルプラットフォーム」。車体・シャシー剛性の大幅向上やさらなる低重心化により、「走行安全」および「衝突安全」のレベルを引き上げるとともに、ドライバーの意思に忠実なハンドリングや、不快な振動騒音を低減した快適な乗り心地を実現します。

スバルグローバルプラットフォーム

シンメトリカルAWD（All Wheel Drive）

前後左右の優れた重量バランス

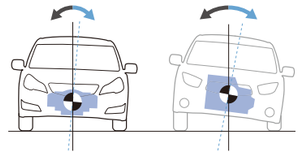
水平対向エンジンのもたらす低重心と、トランスミッションを車体中心近くに集めることで実現する前後左右の優れた重量バランスが、AWDの能力を最大限に引き出し、様々な状況で卓越した走行性能を発揮します。日常走行から高速走行まで、ドライバーの信頼に足るメカニズムの「核」として、SUBARUはシンメトリカルAWDにこだわり続けます。

シンメトリカルAWD

水平対向エンジン（ボクサーエンジン）

コンパクト・低重心

ピストンが左右に向き合う形で配置された水平対向エンジンは、向かい合ったピストンが互いの振動を打ち消しあうため、車内に伝わる振動も少なくすることができます。また、エンジン全高が低くコンパクトな形状がクルマを低重心化。安定した走行姿勢が安心感の高いドライビングを提供します。



SUBARU BOXER　一般的な直列エンジン

運転支援システム「アイサイト」

ステレオカメラで高い認識力を発揮

アイサイトは人の「目」と同様に左右2つのカメラで、前方のクルマや歩行者などを立体的に認識し、それら対象物との距離、形状、移動速度を正確に捉えることで事故回避・被害軽減や運転負荷軽減といった「予防安全」を実現しています。2020年発売の新型レヴォーグに搭載した新世代アイサイトでは、ステレオカメラを刷新して視野角を拡大し、前後4つのレーダーを組み合わせることで、360度センシングが可能になり、交差点などこれまで以上に幅広いシーンで安全運転をサポートします。また、高度運転支援システム「アイサイトX」は、3D高精度地図データをはじめ、GPSや準天頂衛星システム「みちびき」を活用した位置情報を組み合わせることで、車線変更支援、カーブ前速度制御、渋滞時ハンズオフが可能に。自動車専用道路をより安全・快適に移動できる最新機能を、価格を抑えながら実現しています。

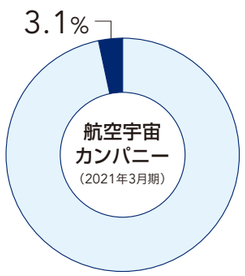
ステレオカメラ

事業別概況

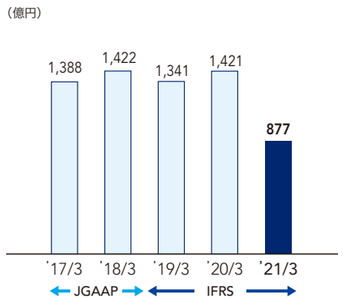
航空宇宙カンパニー

当社の前身は1917年に創設された「飛行機研究所」をルーツとする「中島飛行機」。航空宇宙カンパニーは、「中島飛行機」から続くモノづくりへの情熱を受け継ぎ、多種多様な航空機を開発・生産し、日本の航空宇宙産業をリードしています。防衛事業では、陸上自衛隊で災害救助などにも活躍する多用途ヘリコプター「UH-1J」や「UH-2」、海上自衛隊や航空自衛隊のパイロット訓練を支える初等練習機「T-5」や「T-7」、15機種以上開発した無人機、操縦訓練用シミュレータなどの開発・製造・整備・修理・技術サポートを行っています。民間事業では、米国ボーイング社の国際共同開発に多数参画し、大型旅客機「ボーイング777X」でも中央翼および主脚格納部組立結合、主脚扉と翼胴フェアリング（前部）に加えて、翼々結合部（Side Of Body）等の開発・製造を担当しています。

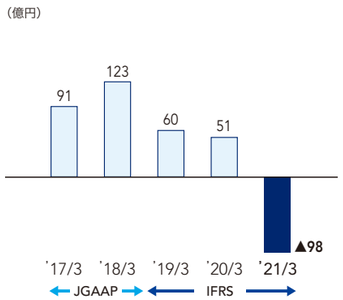
売上収益全体に占める割合



売上収益の推移



営業利益の推移

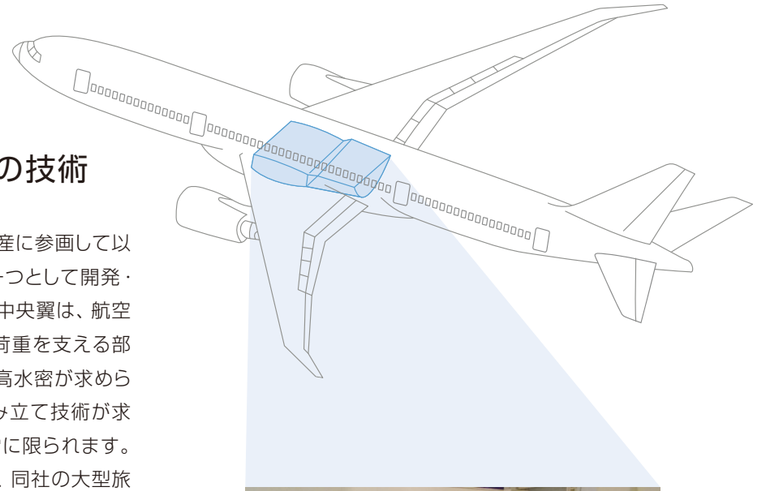


主な製品　・SUBARU BELL 412EPX　・多用途ヘリコプター「UH-2」　・戦闘ヘリコプター「AH-64D」
・初等練習機「T-5」「T-7」　・無人偵察機システム　・ボーイング787中央翼　・ボーイング777・777X中央翼

今後の目指す姿

これまで培ってきた独創的で先進的な技術を、これからも多種多様な航空機の開発・生産に携わることで一層磨いていきます。最新のヘリコプター「SUBARU BELL 412EPX」（陸上自衛隊「UH-2」のベース）を米国ベル・テキストロン社とのアライアンスを活かして共同開発を行い、生産・販売を開始しました。また、モビリティ社会発展に向けて、NEDO（国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構）の「ロボット・ドローンが活躍する省エネルギー社会の実現プロジェクト」に参画するなど、世界的に存在感のある航空機メーカーへと発展すべく、さらなる挑戦を続けていきます。

中央翼の概要とSUBARUの技術



1973年に米国ボーイング社の旅客機生産に参画して以来、40年以上にわたり主要パートナーの一つとして開発・生産に関わってきました。当社が担当する中央翼は、航空機の左右の主翼と前後の胴体をつなぎ、荷重を支える部位で、中身は燃料タンクのため、高強度・高水密が求められます。中央翼の製造には高い精度と組み立て技術が求められるため、対応できるメーカーは非常に限られます。半田工場は、「ボーイング777X」以外にも、同社の大型旅客機「ボーイング777」、中型旅客機「ボーイング787」、防衛省の哨戒機「P-1」および輸送機「C-2」の中央翼の生産を行う、世界的にも類まれな中央翼生産センターです。

中央翼（半田工場）

常務執行役員
航空宇宙カンパニープレジデント
戸塚 正一郎

SUBARUブランドの一翼を担っていきます。

私たちは、航空機の開発製造から飛行試験まで幅広いインテグレーション能力を有する完成機メーカーです。航空機には飛行安全という遵守事項があり、品質と安全が一体となって認識され、徹底されるという文化を長年にわたり醸成してきました。この安全思想こそが「SUBARUらしさ」の根源とも言えます。

防衛事業では、陸上自衛隊「UH-2」の開発を完了し量産を進めています。さらに、ベース機となる「SUBARU BELL 412EPX」についても納入を開始し、本格的な生産フェーズへ移行していきます。

旅客機事業は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大によりしばらくは厳しい状況にありますが、人々のより速く、より遠く、という移動への根本欲求は、旅客機需要を必ず回復させることでしょう。私たちは、来るべき飛躍に備え、防衛事業・ヘリコプター事業をしっかり進めながら、パートナー企業とともに体質強化に取り組んでいます。

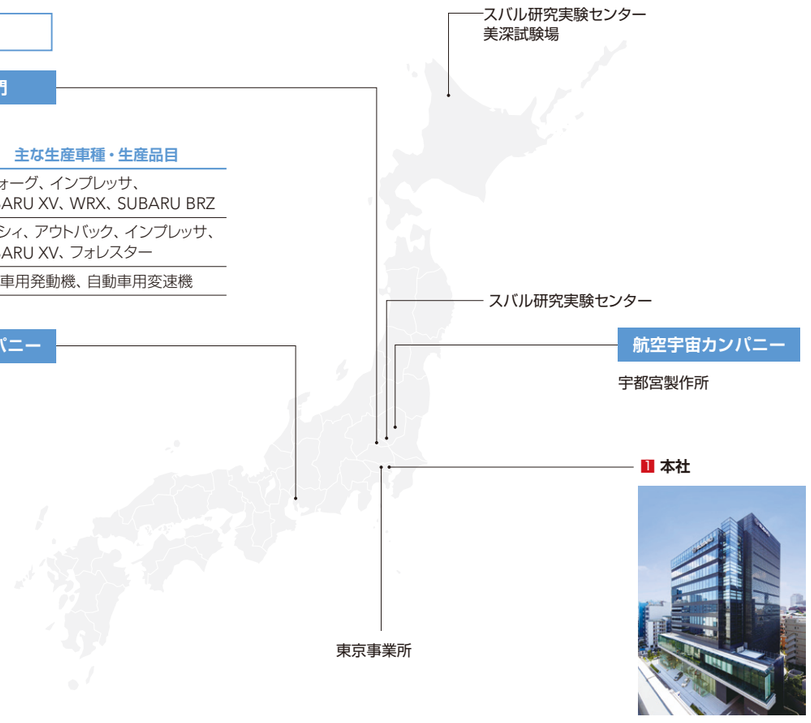
グローバルネットワーク

グローバルネットワーク

主要海外拠点

1. スバル ヨーロッパ
   Subaru Europe N.V./S.A.
2. スバル イタリア
   Subaru Italia S.p.A.
3. スバル ベネルクス
   N.V. Subaru Benelux
4. スバル ヴィークル ディストリビューション
   Subaru Vehicle Distribution B.V.
5. 斯巴鲁汽車（中国）有限公司　スバル オブ チャイナ
   Subaru of China Ltd.
6. 斯巴鲁技術（北京）有限公司
   Subaru Technology Beijing. Co., Ltd.
7. スバル オブ アメリカ インク
   Subaru of America, Inc.
8. ノース アメリカン スバル インク
   North American Subaru, Inc.
9. スバル リサーチ アンド ディベロップメント インク
   Subaru Research & Development, Inc.
10. スバル オブ インディアナ オートモーティブ インク
    Subaru of Indiana Automotive, Inc.
    主な生産車種・生産品目：レガシィ、アウトバック、インプレッサ、アセント
11. スバル カナダ インク
    Subaru Canada, Inc.

主要国内拠点



自動車部門

群馬製作所

工場	主な生産車種・生産品目
本工場	レヴォーグ、インプレッサ、SUBARU XV、WRX、SUBARU BRZ
矢島工場	レガシィ、アウトバック、インプレッサ、SUBARU XV、フォレスター
大泉工場	自動車用発動機、自動車用変速機

航空宇宙カンパニー

半田工場

半田西工場

航空宇宙カンパニー

宇都宮製作所

会社情報

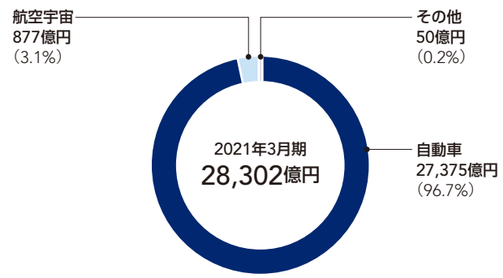
会社概要（2021年3月31日現在）

会社名	株式会社SUBARU （英文表記：SUBARU CORPORATION）
創立	1953年7月15日
資本金	153,795百万円
従業員数	16,478人（連結：36,070人） ※役員、顧問、出向者を除く。
主な事業内容	自動車：自動車ならびにその部品の製造、販売および修理 航空宇宙：航空機、宇宙関連機器ならびにその部品の製造、販売および修理
関係会社数	95社（子会社87社·関連会社7社·その他の関係会社1社）
WEB	公式企業サイト https://www.subaru.co.jp 投資家情報サイト https://www.subaru.co.jp/ir/

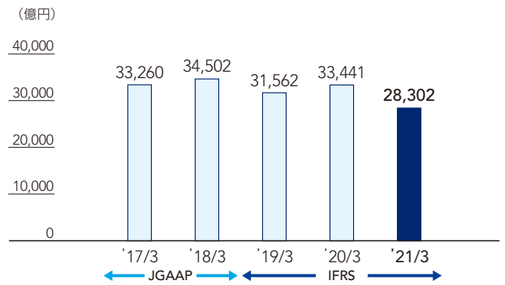
役員（2021年6月23日現在）

取締役会長	細谷 和男
代表取締役社長 CEO	中村 知美
取締役専務執行役員 CFO CRMO	水間 克之
取締役専務執行役員	大拔 哲雄
	大崎 篤
	早田 文昭
社外取締役	阿部 康行
	矢後 夏之助
	土井 美和子
常勤監査役	加藤 洋一
	堤 ひろみ
社外監査役	野坂 茂
	岡田 恭子

事業部門別連結売上収益比率

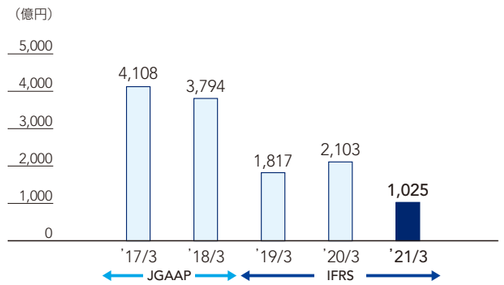


連結売上収益の推移



※ 2020年3月期第1四半期より国際財務報告基準（IFRS）を任意適用しており、前期の数値もIFRSベースに組み替えて表示しています。

連結営業利益の推移



株式会社SUBARU

〒150-8554 東京都渋谷区恵比寿1-20-8
エビススバルビル
TEL&FAX：03-6447-8000
https://www.subaru.co.jp

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C007043

2021.12